平成 25 年度化学研究所若手研究者国際短期派遣事業研究滞在記

有機元素化学研究領域　研究員　菅又　功

平成 25 年 9 月 4 日から 11 月 29 日の期間にドイツのボン大学に研究滞在をさせていただきました。滞在地であるボンは東西ドイツ統一前の西ドイツの暫定首都であり、ベルリンに首都が移動した現在でも、国家の中枢機能を保持している重要な都市です。規模はあまり大きい都市ではなく、ボン中央駅を中心にコンパクトにまとまっており、住むのに適した街であると感じました。滞在させて頂いた R. Streubel 教授の研究室は主にリンを扱う無機化学の研究室であり、リンに関しては世界でも第一線の研究を行っており、その研究室において研究を行うことができ、非常に感激いたしました。海外からの留学生も多く、研究者の受け入れに慣れていることから、滞在計画もスムーズにやり取りをすることができました。研究に関しても、ラボメンバーにサポートをしてもらい、何も困る事なく実験を開始することができました。日本でもリンやケイ素を扱う有機元素化学研究領域で研究を行っていたことから、実験器具や装置にはすぐに慣れましたが、実験時間、測定方法についてはすぐには慣れませんでした。日本では一日中研究ができる一方で、ヨーロッパの研究室では、17 時頃にはみな帰路についてしまうと聞いていましたが、滞在先の研究室でもご多分に漏れず、日が暮れる頃にはみな帰宅していました。また、日本での測定は実験者が各々測定するスタイルをとっていますが、滞在先ではいずれの測定を行うにも技官へ測定を依頼するスタイルとなっていました。当然、技官も 17 時頃には帰宅してしまうので、その後の測定を自分で行えず、若干困惑する場面もありました。そのため、日中は集中して実験のみを行ない、17 時以降にデスクワークを行うなど、メリハリのきいた生活を送ることができました。最も良い経験となったのは、自身初の英語での研究報告や教授とのディスカッションであると思っています。これまでも国際学会に参加する機会はあったものの、ポスター発表のみであったので、口頭発表を経験することができたのは非常に大きな経験であり、自信となりました。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった化学研究所及びボン大学の関係者各位に深く御礼申し上げます。